

今週（9月20日から9月22日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

インターバンク市場は、新型コロナオペの期落ちによる調達量の減少から慎重な対応を取る先も多く、比較的低めの水準での取引が中心となった。無担保コールO/N物は、週を通して▲0.07～▲0.04%近辺での取引が中心となり、20日と21日の加重平均レートは▲0.052%となった。22日は、連休前でやや低下する先も見られたが、概ね横這い圏での推移となった。

ターム物に関しては、月内物を中心に▲0.06～▲0.05%台で出会いが散見された。地銀業態を中心に政策金利の回避を目的とした運用ニーズが強いなか、調達サイドは低めの水準で推移する展開が続いた。

今週の日銀当座預金残高は、9月20日の国債の大量償還・利払いにより増加し、その後は513兆円近辺での推移となった。

引き続き、長期金利が0.25%近辺で推移する中、指値オペへの応札が連日確認された。20日は、カレント3銘柄が対象となるオペに対し、8,361億円の応札が見られた。21日も、カレント3銘柄が対象となるオペに対し、12,637億円の応札が見られた。22日も、カレント3銘柄が対象となるオペに対し、3,713億円の応札が見られた。また、21日には臨時の国債買入オペが2本実施された。オファー額は、残存期間5年超10年以下が1,500億円(落札額1,504億円)、残存期間10年超25年以下が1,000億円(落札額1,006億円)であった。

9月21から22日に開催された日銀金融政策決定会合では、新型コロナオペの期限延長と1回あたりの期間を3か月間に短縮、加えて金額無制限の共通担保資金供給オペの実施が発表された。新型コロナオペに関しては、①中小企業等向けのプロパー融資分は、期限を半年間延長し、2023年3月末に終了することとする。この間、毎月1回、3か月物の資金供給を実施する。②中小企業等向けの制度融資分は、期限を3か月間延長し、2022年12月末に終了することとする。この間、毎月1回、3か月物の資金供給を実施する。共通担保資金供給オペに関しては、9月27日に予定している次回実施分から変更される。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.095～▲0.08%程度での推移となった。

SC個別銘柄では、2Y430～437回、5Y145～153回、10Y355～367回、20Y170～181回、30Y65～75回、40Y10～15回など、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーンの金利が低下した。21日に実施された3M物(第1110回)の入札は、年末越えとしては初回債となった事から、やや強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。これを受け、短国市場は3Mゾーンが堅調に推移する展開となった。

●CP市場

今週のCP市場は、電力・ガス、電機メーカー等の業態から大型発行が見られたものの、その他では小口案件が中心となった事から、発行額はさほど伸びなかった。市場残高は、先週比で概ね横ばい圏となる28兆円前後での推移となっている。発行期間については、ノンバンクと電力業態から期越えの発行が一部見られたものの、大半は期内物の発行が占める事となった。

発行レートについては、引き続き日銀適格担保銘柄で0%から若干のプラス圏と、狭いレンジに集中している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/19(月)						
9/20(火)	27,688.42	0.250	143.23	△ 0.052	△ 0.092	5,133,400
9/21(水)	27,313.13	0.250	143.70	△ 0.052	△ 0.092	5,135,600
9/22(木)	27,153.83	0.235	144.45	△ 0.055	△ 0.091	5,141,800
9/23(金)						

来週（9月26日から9月30日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/26 (月)					
9/27 (火)	8月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 7,000億円 9/28発行			8月の米耐久財新規受注 7月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 9月の米CB消費者信頼感指数 8月の米新築一戸建て販売件数
9/28 (水)	金融政策決定会合議事要旨(7月20・21日分 8:50) 7月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				
9/29 (木)		2Y 28,000億円 10/3発行	交付税借入 13,000億円 10/11借入		4-6月期の米GDP確報値
9/30 (金)	月例経済報告(内閣府) 8月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 8月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 8月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 8月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 9月の消費動向調査(内閣府 14:00) 8月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 56,000億円 10/3発行			8月の米個人所得・消費支出 9月のシカゴPM景況感指数 9月のユーロ圏消費者物価指数速報値 4-6月期の英GDP確報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/26 (月)	400	31,500	31,900	国債買入 国債補完 CP買入		3,700 12,600 ▲ 500	15,800	47,700	TB3M発行▲56000償還56000 TB6M償還32000
9/27 (火)	500	▲ 1,000	▲ 500				0	▲ 500	
9/28 (水)	▲ 1,000	▲ 17,000	▲ 18,000	新型コロナオペ 全店共通	▲ 287,700 ▲ 7,300		▲ 295,000	▲ 313,000	財政融資資金の回収 40Y発行▲7000
9/29 (木)	▲ 500	▲ 2,000	▲ 2,500				0	▲ 2,500	
9/30 (金)	▲ 900	3,000	2,100	CP買入		4,000	4,000	6,100	
週間合計	▲ 1,500	14,500	13,000	—	▲ 282,900	7,700	▲ 275,200	▲ 262,200	

9/26は日銀予想、9/27以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続きビッドサイドに慎重な姿勢が見込まれる事から、レート水準は横ばい圏での推移が予想される。ただし、30日は期末となる事もあり、一時的にやや低下する事も想定される。債券レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレート水準は横ばい圏での推移が予想される。短国市場は、30日に3M物の入札実施が予定されている。また、27日に実施が予想される短国買入オペは、1,000～5,000億円程度が見込まれる。CP市場は、27日にCP等買入オペが予定されているが、9月末を控えオファー額・レート動向が注視される。

主要なイベントは、国内では、28日に金融政策決定会合議事要旨の公表、海外では、27日に8月の米新築一戸建て販売件数、29日に4-6月期の米GDP確報値、30日に8月の米個人所得・消費支出、9月のユーロ圏消費者物価指数速報値などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入